

海外・国内・訪日の三位一体の成長を目指す

3 年目の百木田会長は海旅完全復活へ強い意欲

トラベル懇話会は帝国ホテルで第 46 期通常総会を開催しました。コロナ禍の長いトンネルから抜け出し新時代への適応を図る各会員同様に、トラベル懇話会も新たな環境のもとで活動を強化すべく、さらなる会員拡充や来年 4 月からの会費の値上げ方針を総会に諮り了承を得ました。また第 47 期が 3 年目となる百木田会長は、海旅完全復活へ意欲を示すと同時に、その先を見据えた生産性向上や人材確保にトラベル懇話会として取り組む重要性も指摘しました。



第 47 期役員（キックオフパーティー欠席者を除く）

第 46 期（2023 年 4 月～2024 年 4 月）通常総会の冒頭の挨拶で百木田康二会長は、会長自身が経営に携わる旅行会社を含む大手 5 社が、青森市発注の特定移送業務入札において談合し、5 月 30 日付で独占禁止法違反と認定されたことに言及。「皆様

に大変なご迷惑、ご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。各社とも再発防止に向けて動き出しており、2 度とこのようなことがないように対応を図っておりますのでご理解いただきたいと思います」と謝罪の言葉を述べました。

次いで会長就任以降の45期と46期を振り返り、会長1年目の45期はコロナ禍の影響が色濃く残るなかで「脱コロナ禍の突破口」を目指し、トラベル懇話会の全活動をリアル開催に戻す取り組みなどに力を注いだと説明。また会長2年目となった46期には新型コロナウイルスの5類移行を受けて人流が回復。そうした状況のもと会員獲得に注力し「コロナ渦中にトラベル懇話会を離れた会員をもう一度仲間に戻すための会員拡充」や「ワクワクする魅力ある懇話会活動」の実現に取り組んできたと振り返りました。

そのうえで「コロナ禍中に旅行業界を離れた人材が戻らないことに加えて労働時間規制等もあり、現在は業界全体が人手不足に陥っています。バスのドライバーやガイドも足りない状態で、我々のビジネスパートナーにも多大な影響が生じているのが現実です。また国内旅行、訪日旅行が大きく回復する一方で海外旅行の復活は遅れており、旅行業界の完全復活を目指すには今後、国内、訪日、海外が三位一体で発展、伸長していくことが必要です」と旅行業界が直面する課題について触れました。

また「コロナ禍前からの課題でもある生産性の向上を図り、旅行業界に関心のある学生たちに目指してもらえらるることにつながるような活動に、トラベル懇話会として取り組んでいく必要があると思います」と述べました。

正会員出席数65名、委任状31の議決権数96で、議決権総数（正会員数）122の過半数をクリアして成立した総会では、第47期の事業計画が承認されました。計画では第46期に引き続き会員拡充を図り正会員

数130名（24年4月1日現在の正会員数118名）を目指すことや、会員の発言機会を増やす例会の工夫に取り組む一方で、新たな取り組みとして産学連携の活動を強化。神田外語学院との覚書に基づき会員会社で学生のインターンシップを受け入れると共に、神田外語学院へ講師を派遣。



47期会長として挨拶する百木田氏

さらに、ここ数年にわたり単年度赤字を回避するため経費削減による緊縮財政による運営を続けてきましたが、トラベル懇話会の魅力を維持していくためには会費の引き上げもやむなしと判断。48期（25年4月～26年3月）からの会費引き上げを決めました。これにより48期以降の正会員の年間会費は、現行の11万円から2万5000円引き上げられて13万5000円になります。

3年目を迎える百木田会長を選任

第46期通常総会では第47期の役員を選任。大島秀崇氏、酒井和子氏、中鉢真輔氏の3名の理事新任が決まり、10名の再任理事と2名の再任監事、任期中理事10名を含め合計25名の役員を決定。さらに総会後の理事会によって百木田会長が3年目となる第47期の会長に選ばれました。

第46期総会に続き開催された第47期キックオフパーティーで、改めて3年目の挨拶に立った百木田会長は「我々としてはまず海外旅行復活のひと言に尽きます。国内、

訪日が大きく回復する中で海旅の復活が遅れ、非常にバランスが崩れた現状であることを認識した上で、三位一体のバランスの取れた発展、伸長を目指して会の運営に当たっていきたいと考えています」と海外旅行復活へかける意気込みを示しました。



海外旅行復活への思いはパーティーに参加した多くの関係者にとって共通の思いでした。来賓として挨拶した観光庁の石塚智之審議官は「観光行政においてオーバーツーリズムや人手不足と共にアウトバウンドをどうするかは大きな課題と認識しています。一方で何をすべきか難しさがあり、その中身について議論しその中身を還元していただければ幸いです」とトラベル懇話会の活動への期待を述べました。

海旅復活なくして業界の復活なし

また JATA の高橋広行会長も「海旅回復の遅れには円安や費用高騰、仕入環境の厳しさ、国内旅行シフトなど様々な要因がありますが、すべてを飲み込んで、これから何をやるべきか考えて行かなければなりません。我々には、旅行需要がほぼ消失し



たコロナ禍の 3 年間に生き抜いてきた知恵と経験があります。これを海外旅行の復活に活かしていければと思います」と参加者を鼓舞。さらに

「海外旅行の復活無くして旅行業界の復活なし。一刻も早い海旅復活を実現したいと思います」と胸の内の明かししました。

パーティーではトラベル懇話会と産学連携に関する覚書を交わした神田外語学院の今井実院長も挨拶。日本の高度経済成長期に他の教育機関に先立って観光・ホテル・エアライン専門学科を創設し、旅行業界にも多くの人材を輩出してきた実績を説明したうえで今井院長は、「海外の大卒外国人を対象に、日本で就労するのに必要な日本語力や異文化理解力等を学べる、法務省認可の『キャリア日本語科』を 10 月に新設。生産年齢人口減が進む日本で外国人就労に貢献したいと考えています」と、人材不足の旅行業界も注目の新設学科を紹介しました。



この後、橋本肇副会長が「47 期の新しい体制が決まり、具体的な活動内容を決める 5 つの委員会のメンバーも決まりました。本日以降、百木田会長と共に会員間の懇親とコミュニケーションをしっかりと図れる場を作り上げていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願い致します」と挨拶、乾杯となりました。



観光庁・石塚審議官（左上）／JATA 高橋会長（左下）
神田外語学院・今井院長（右上）／橋本副会長の乾杯の
音頭でキックオフパーティーが開幕（右下）